

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4070703238
法人名	有限会社ミラクル
事業所名	グループホームこの葉
所在地 (電話番号)	福岡県北九州市八幡西区三ツ頭2丁目15番10号 (電話) 093 - 691 - 8858

評価機関名	株式会社アーバン・マトリックス		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成19年8月8日	評価確定日	9月26日

【情報提供票より】(平成19年7月27日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年6月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤	7人, 非常勤 4人, 常勤換算 6人

(2) 建物概要

建物構造	木造造り 2階建ての1階部分
------	-------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	31,500円	その他の経費(月額)	水道・光熱費 21,000円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,050円	

(4) 利用者の概要(7月27日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	1名	要介護2		1名	
要介護3	3名	要介護4		2名	
要介護5	2名	要支援2			
年齢	平均 86歳	最低	69歳	最高	99歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	高嶋クリニック / 若戸病院 / 有吉歯科
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

運営理念に「決まった流れにとらわれず、ゆとりと笑いの絶えないホーム、看取りの介護まで」を掲げ、ターミナルへの取り組みの方針を明らかにしている。施設長が看護師の資格を持ち、職員も看護師2名がおり、医療的な対応ができる体制を整えている。グループホームは閑静な住宅地に位置し、開設3年目を迎え、地域の方々の理解が年々高まり、散歩などの際に親しく話す機会が増えている。最近では見学も多く、日頃から介護の相談などがあれば、気軽にお越し下さいと話している。グループホームの共用空間は歩行訓練ができるように広々としており、開放感があり、畳の共用空間も完備している。空調システムは24時間作動し、換気などを行き届いている。今後は終末期を迎えられるホームとしてノウハウの蓄積が大いに期待される。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回調査では、温湿計の設置や研修の充実・マニュアルの見直し・地域との連携向上・外出の機会の増加など指摘を受け、それらの課題解決に向けて前向きに取り組んだ。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 前回の指摘を受けた課題に対し、日々のケアを振り返り、課題の一つひとつに関して取り組み、その多くを改善した。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 地域との連携を高める場として、地域の情報をいただいたり、グループホームの情報を回覧板で回していただくなど、情報交換・情報発信の場として運営を行っている。また、グループホームに関する意見交換の場として、さまざまな意見を伺い運営に反映できるように努めている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 意見箱を設置しているが、基本的には面会時に家族の意見や要望などを聞くように努めている。家族の意見で、「職員に名札を付けてほしい」との要望があり、現在、作成中である。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の行事や祭りに参加すると共に地域の清掃活動にも参加している。近郊の保育園との連携により、歌や踊りを披露してもらったり、地域のボランティアの方々マジックやハワイアンなど披露してもらするなど協力を高めている。また、日課として散歩の際には、挨拶や声かけなど、気軽に話ができる関係を築いている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念を「決まった流れにとらわれず、ゆとりと笑いの絶えないホーム、看取りの介護まで」を掲げて、終末期までの介護を行う方針を明確に打ち出している。理念として地域密着型サービスの方針も検討していただきたい。		法改正により、グループホームは「家庭的な環境と地域住民との交流の下で」に改められ、地域との関係性が重視され、これまでの理念に加えて、地域密着型としての役割を果たす内容が求められ、それらをふまえた理念の内容の検討が望まれる。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は日常のケアの中で振り返り、理念に基づいたケアができるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事や祭りに参加すると共に、地域の清掃活動にも参加している。近郊の保育園との連携により、歌や踊りを披露してもらったり、地域のボランティアの方々がマジックやハワイアンなど披露してもらうなど協力を高めている。また、日課として散歩の際には、挨拶や声かけなど気軽に話ができる関係を築いている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の指摘を受けた課題に対し、前向きにとらえ、改善に向けた取り組みを積極的に行っている。特に地域との関係づくりに関しては、清掃活動に参加するなど働きかけを行い、日常的な挨拶を含め、地域の理解が高まっている状況がある。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域との連携を高める場として、運営推進会議を活かし、情報交換・情報発信を行っている。また、意見交換の場として、さまざまな意見を伺い、運営に反映できるように努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区役所の担当部署と情報交換や相談などを行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度の利用があり、人権に関する研修として、身体拘束や高齢者虐待などに関する研修や勉強会が行われている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に家族への近況報告を行い、金銭管理は毎月、定期的に領収証と共に時系列にまとめ、家族へ報告している。		日頃の入居者の状況を定期的に報告することが求められ、入居者の暮らしぶりやエピソードなど手紙や写真など、便りとして送られると家族の安心感がさらに高まるものと考えられる。
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の意見、面会時での意見・要望などは、職員間で話し合い、解決に向けて取り組んでいる。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職などの際には、入居者と職員がなじみの関係ができるまで、ローテーションに配慮し、入居者のダメージがないように支援している。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	職員の研修の参加をバックアップするために、ローテーションなど配慮し、研修が受けられるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	スキルアップ研修の受講の記録があり、報告書としてまとめ、全職員が閲覧できるようになっている。身体拘束や高齢者虐待に関する研修や勉強会を行い、人権に関する意識が高まるように支援している。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	スキルアップ研修の受講記録があり、報告書としてまとめられ、全職員で閲覧できるようになっている。また、職員が近郊の施設へ見学し、他の施設のサービスの実態を把握するなど、研修や実習などに力を入れている。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	近郊のグループホームとのネットワークがあり、情報交換を行っている。今後は、さらに日々のサービスや職員育成に役立つ実践的な交流や連携を図る方向にある。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	施設長が看護師の資格を持ち、医療機関とのネットワークがあるため、医療処置の必要性が高い入居者が多く、入居も緊急性が高い。そのため、本来は体験入居などをお願いしたいが、体験入居が厳しい状況にある。今後は体験入居も視野に入れた調整を行っていただければと考えている。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	入居者の重度化に伴い、入居者の能力が発揮できる役割が少なくなっている。毎日の暮らしの中で、洗濯物たたみ・新聞たたみ・掃除など、果たす役割が限定されてきている。その中で、昔の経験や歌を聞かせていただくなど、暮らしの楽しみを見いだせるように支援している。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握	重度化に伴い、思いや意向の把握が難しい状況にある。日々のレクリエーションや日課など入居者の思いや意向にそい支援したいと考えているが、入居者の意欲低下などに伴う意向の確認が難しい状況にある。		入居者の重度化に伴い、思いや意向の把握が厳しい状況にあるが、家族からの情報を得るなどアセスメントの充実が求められる。
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画	介護計画は、短期目標が掲げられ、短期目標に応じて、具体的なケアの方法が明確にされ、ケアの方針が統一されている。ただ、暮らしの中で生きる喜びを見出すケア内容の検討が求められる。		日々の職員の気づきや意見を反映しながら、入居者の生きる喜びにつながるものは何か、職員間で話し合い、ケアに組み入れる検討を行ってほしい。
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	現状に即した介護計画の見直し	一定の期間に応じた見直しを行っており、状態変化が生じた場合は、関係者と話し合い、介護計画の見直しを行っている。		
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
3.多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援	親族のデイサービスとの合同レクや入居者の個別のかかりつけ医への往診の送迎などを行っている。		
		本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4.本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援	入居者のかかりつけ医の往診を支援すると共に、毎月定期的に提携医療機関の往診を受けている。歯科医も毎月定期的に往診している。		
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	重要事項説明書に重度化に伴うケアの内容が明記され、方針を明らかにしている。常に提携している医療機関と連携を密に取り、終末期における体制を築く努力を行っている。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	記録類は、事務所や決められた場所に保管しており、個人情報として管理している。声かけは、入居者の誇りやプライバシーを損ねない対応を心がけている。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	入居者の思いや意向にそったケアができるように、現場のケアスタッフの人員体制を工夫している。調理は専任をおき、職員が調理もケアも行わないようにしている。また、看護師の研修生を受け入れ、入居者のケアに当たる人員を手厚くし、入居者の意向にそった支援ができるように配慮している。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	専従の調理スタッフが2名おり、そのことで、毎日、手作りのおやつが提供できるなど、食事の充実を図っている。献立は刺身など入居者の好みを取り入れ、食事を楽しみにしていただけるように支援している。また、入居者の能力を活かし、ふきの皮むきや台拭きなど、できることを行っていただく支援を行っている。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	入居者の意向にそって、午前・午後の入浴ができるように支援している。入浴を拒む場合は対応を工夫し、入居者の状態に応じて入浴をしていただくように支援している。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	暮らしの中で入居者が生きがいを見出し、能力を活かしていただくために洗濯物たたみ・皮むき・布きり・新聞たたみ・拭き掃除など役割を持っていただいている。また、風船バレーや輪投げ・パズル・塗り絵など、楽しみごとを準備し支援している。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	日課として散歩や買い物を楽しんでいただけるように支援している。また、天気の良い日には、弁当を持ってハイキングに出掛けるなど車でのドライブ・花見など外出の機会を増やす支援を行っている。		
		事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	玄関は日中は鍵をかけることはない。居室はプライバシー保護のため、入居者の希望によって鍵をかけることができるが、現在は鍵をかけたいという要望はない。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	年1回、消防訓練を行い、災害時に備えている。また、地域での消防訓練に参加し、地域との協力関係を築く努力を行っている。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	毎日、個別にバイタルチェックの記録があり、毎食の食事量・水分摂取量を把握している。栄養バランスは調理専門の職員が2人おり、バランス取れた美味しい食事を提供している。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	共用空間は歩行訓練ができるように、ゆったりと広々としている。照明は天井からやさしい間接照明が何カ所か設置され、光に配慮した空間づくりを行っている。カレンダーなど手作りで家庭的な温かい雰囲気に満ちている。また、畳の多目的室もあり、行事などにも対応できる空間を確保している。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	居室は備え付けのクローゼットがあり、家具の持ち込みなどができるようになっている。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			